

2013.09 vol.24



台風で被害に遭った富士山の森 人間が手助けして天然の広葉樹林に

NPO法人山の自然学クラブ 副理事長 中村華子



伝説の湖「九寨溝(きゅうさいこう)」

写真:EyeWitness 野田 雅也(写真家)

中国・四川省西北部の原生林のなかに、色鮮やかな湖やカルスト地形の滝が連なる。石灰岩の成分を含む湖の水は、息を呑むほど透明度が高い。深さ20メートルの湖底に沈む倒木が、手の届く浅瀬にあるかるかのようだ。この渓谷に暮らすチベット人は、湖を「女神の鏡のかけら」として大切に守ってきた。ジャイアントパンダの姿も水辺に見られたといふ。しかし今は、観光開発が進み、野生パンダの個体数は危機に瀕する。人間の欲望が、女神の鏡を壊させているのかかも知れない。

私は、この場所を富士山に本来あるような天然の広葉樹林に戻すこと目標にしました。木がなぎ倒されて荒れた森は

高さ三メートルの スキ野原刈る

私たちが当初中心となっていた協定を結びました。私は日本山岳会のメンバーが、山の成り立ちを深く学びながら自然を守るために活動をしたいという団体ですが、会員から森づくりの活動をしたいという声が上がり、「二〇〇三年から五年間ずつの協定を結び、山にわたり活動を続けています。

同じ標高の南麓で 木の種子集める

富士山は北側と南側で生育している植物が違います。なので、買った苗木は植えるのではなく、同じ

風によつて富士山南麓の国有林では広い面積でヒノキなどの人工林が倒れました。復元には災害に強い広葉樹ができるだけ使い、市民の手を入れながら取り組もうということになりました。市と国有林の管理協定を結びました。

私たちちは日本山岳会のメンバーが、山の成り立ちを深く学びながら自然を守るために活動をしたいという団体ですが、会員から森づくりの活動をしたいという声が上がり、「二〇〇三年から五年間ずつの協定を結び、山にわたり活動を続けています。

最初に行つた時には、一面スキ野原でした。スキの種が風に乗つて飛んできて育つたものです。もともと林だったことで養分がたっぷりあり、一年目に高さが三メートルくらいにまで伸びていて「何これ?」とびっくりしました。そのスキをある程度刈つて、出来るだけ多くの種類の木々を植えました。継続的に手入れをしてきた結果、現在はそれらの木々や周りから種が飛んできた木が育つて初期の森林・低木林の状態になりました。

富士山と日本人 今後も良い関係を

富士山と日本人は長い付き合いです。平安時代には信仰の対象となり登山が行われた記録があります。この度世界文化遺産に登録されたことで、富士山を守る対策は取りやすくなると思います。これからも、山と人がよい関係を保つていくことが出来よう様々な人々が協力せん。



まちレポ

第二の地球プロジェクト・バイオスフィア2(下)

広島経済大学 経済学部教授、サステナブルコミュニティ研究所 所長
川村 健一

ドーム内で2年間にわたって実験生活を送る第二の地球プロジェクト「バイオスフィア2」では、多くの地球環境システムが研究されました。土を使ったソイルベッドリクターといわれる空気浄化システム、テラビアという魚と微生物を組み合わせてトイレの排水を浄化して再利用する循環システムなど、現在でもエコロジカルな循環システムとして様々な場所で活用されています。

ビル内の駐車場の排気ガスで汚れた空気や、交通の激しい交差点の汚れ

中村華子(なかむらはなこ)

東京都生まれ。東京大学大学院農学生命科学研究科修了。アウトドアメーカー勤務を経て調査研究・植林指導などの業務、飲食店経営などのかたわら、みんなの手による国土づくりの推進を目指し、NPO法人山の自然学クラブ副理事長、富士山森林復元活動担当理事として活動。主に森林の立地環境と樹木の成長との関係を研究の主題としており、近年は遺伝子の多様性保全などを目標に、地域性種苗の普及活動に取り組んでいる。



今は木も大きく育ち、森らしくなってきた。



活動を始めた時のスキ。人の背丈以上ある。

標高の富士山南麓の森からいろいろな種類の木の苗を集め、それを植えていきます。売っている苗木の多くは小さなポットで育ち、根がぐるぐる巻いてしまって、自然に近い状態で根を張れないことが多いですが、自然な状態で育つた木は深く根を張り、大地を守ることにもつながります。

今は、荒れ地など明るいところを好み植物の勢力が旺盛ですが、これからは、富士山本来の広葉樹林の森にある木のうち、成長の早いケヤキやサクラ類などに置き換わっていきます。今年から協定の第三期に入りましたが、予想以上に順調に森の再生が進められたので、あと十年もすれば、ブナ、ミスナラ、カエデなどの成長の遅い木も育つてきて、本来の森に近づけることができると思っています。

自然を守る活動が成果を上げるには、多くの人が自主的に楽しみながら継続的に行うというのが理想です。私たちの活動に参加してくれた人たちが自然の楽しさや心地よさなどを感じ、出来る範囲で続けてくれるようになれればと思っています。